

Economic Indicators

発表日:2021年7月15日(木)

第3次産業活動指数(2021年5月)

～医療や飲食関連を中心に前月比大幅低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

前月比	2020								2021				
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
第3次産業活動指数	▲2.6	8.8	0.3	0.8	2.0	0.8	0.0	▲0.4	▲1.0	▲0.3	2.4	▲0.8	▲2.7
電気・ガス・熱供給・水道業	▲6.7	5.7	▲6.7	11.0	0.0	▲2.4	0.2	2.9	2.2	▲5.2	0.1	0.5	0.0
情報通信業	▲3.7	2.8	1.6	▲2.2	▲0.1	1.5	0.3	▲0.7	2.4	▲2.9	1.4	6.8	▲3.7
運輸業, 郵便業	▲5.6	12.4	1.5	0.1	3.6	▲0.2	0.2	▲0.7	▲1.3	0.9	4.3	▲2.5	▲3.7
卸売業	▲7.3	5.4	2.7	0.5	2.8	2.8	▲1.9	1.6	0.7	▲2.9	2.6	▲0.4	▲4.0
金融業, 保険業	▲2.6	6.4	▲1.2	0.7	0.6	▲0.2	2.0	▲1.6	3.9	▲3.3	2.6	0.6	▲1.2
物品賃貸業	▲2.2	2.2	▲0.7	▲0.3	0.1	0.3	0.3	▲0.4	▲0.7	▲0.3	1.5	0.0	▲1.0
事業者向け関連サービス	▲1.3	1.2	▲0.4	1.3	1.0	▲0.2	0.5	0.0	▲0.9	▲1.7	3.2	▲1.9	1.6
小売業	2.5	13.6	▲4.7	2.8	1.2	0.6	▲0.3	0.5	▲3.0	2.9	0.9	▲5.3	▲0.8
不動産業	0.6	4.9	0.0	3.9	▲2.7	0.6	▲0.2	▲1.7	1.7	▲1.0	1.0	▲1.1	1.1
医療, 福祉	▲3.9	9.6	1.7	0.0	2.4	0.7	▲1.5	1.7	▲3.0	0.7	4.1	▲1.0	▲5.2
生活娯楽関連サービス	2.5	36.8	6.5	▲3.3	10.9	3.0	2.0	▲5.6	▲11.3	7.9	2.6	▲2.4	▲8.1

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数は2カ月連続の下落

5月の第3次産業活動指数は、前月比▲2.7%（コンセンサス：同▲0.9%、レンジ：同▲1.4%～+0.5%）と2ヶ月連続の低下となり、コンセンサスを大きく下回った。

内訳をみると、医療・福祉、生活娯楽関連サービス、卸売業等を中心に、主要11業種のうち8業種で指数が低下した。4月に引き続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響が下押し要因となり、医療機関のほか、厳しい営業規制を受けた飲食関連での落ち込みが目立った。

○ 医療や飲食関連を中心に前月比で大幅低下

内訳をみると、マイナス寄与の大きい業種は次の通り。医療・福祉が前月比▲5.2%（寄与度：▲0.72%pt）となった。医療・福祉はコロナ禍以降月々の振れが大きくなっており、3月の高い上昇の反動減があったほか、感染者拡大の局面における受診控えがあったものとみられる。

生活娯楽関連サービスは、前月比▲8.1%（寄与度：▲0.68%pt）と2ヶ月連続の大幅低下となった。4月下旬に発令された緊急事態宣言等の影響により低調な推移が続いており、厳しい営業規制を受けた飲食店が大きく落ち込んだ。また、5月の大型連休需要が振るわなかった旅行業、宿泊業なども下押しした。

卸売業は、前月比▲4.0%（寄与度：▲0.52%pt）となった。緊急事態宣言により個人消費が下押しされたことから、飲食料品卸売業が減少した。また、5月は製造業生産が低調だった影響もあり、自動車関連や電気機械関連の機械器具卸売業が減少したことも下押し要因となった。



また、同日に公表された再編集系列¹では、家計部門が前月比▲4.2%、企業部門が▲2.7%とそれぞれ下落した。家計部門は、生活関連娯楽サービスの減少が主要因となり、3カ月連続の低下となった。企業部門は、マイナスに転じるのは3カ月ぶりとなる。上述の卸売業の減少のほか、企業の活発なソフトウェア投資を背景に好調だった情報通信業も、5月は反動により大きく落ち込んだことが要因となった。

○ 先行きは、緊急事態宣言等の影響が継続

5月の第3次産業活動指数は、緊急事態宣言等の影響を受け、医療機関や飲食関連を中心に前月比▲2.7%の低下となった。低下幅としては、1度目の緊急事態宣言が発令された昨年4月に次ぐ大きくなっており、厳しい営業規制を受けサービス消費の低迷が続く。先行きについては、国内のワクチン接種ペースが加速する一方で、6月以降も緊急事態宣言等が継続しており、飲食店等への厳しい規制が続くことが見込まれるため、低調な推移が続くだろう。恒常的なサービス産業活動の回復には時間を要する見込みだ

○ 全産業動向は足踏み状態

国内全産業の生産動向を捉える指数として、経済産業省の全産業活動指数があったが、2020年7月分をもって公表終了となった。もっとも、鉱工業生産指数と第3次産業活動指数を統合することで全産業活動指数の類似指数が作成可能である（以下、統合指数²）。

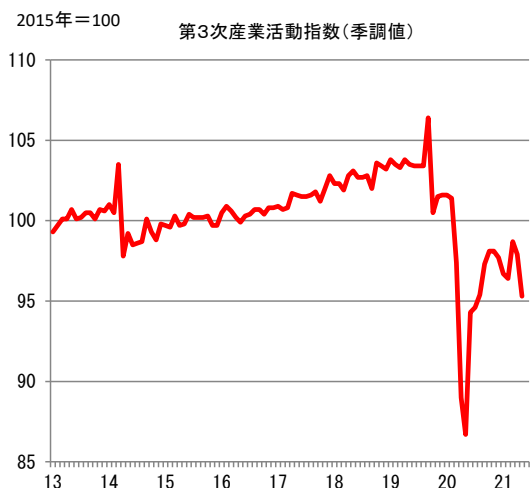
5月の統合指数は、前月比▲3.6%と3カ月ぶりにマイナスに転じた。第3次産業活動指数の低下に加えて、世界的な半導体不足を背景とした自動車減産により鉱工業生産指数が同▲6.5%と低下したことから、全産業でも大幅な低下となった。

こうした落ち込みの結果、統合指数の4-5月平均の値は1-3月期を▲0.5%Pt下回っている。鉱工業生産については均してみれば上昇基調が保たれている一方、感染再拡大と緊急事態宣言発令によってサービス関連を中心とした第3次産業活動指数の下振れが目立つ。供給側から見たGDPとも言える統合指数からは、1-3月期に続いて4-6月期の景気も停滞感が強い状態が続いたことが示唆される。

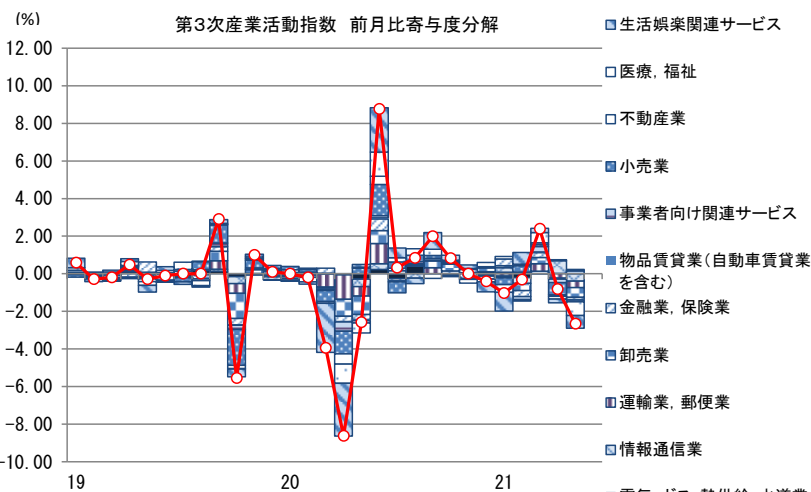
¹ 第3次産業活動指数のうち、それぞれ家計部門（広義対個人向けサービス活動指数）と、企業部門（広義対事業所向けサービス活動指数）に取り出して再集計した指数。

² 統合指数は、鉱工業生産指数と第3次産業活動指数を、2015年の産業連関表の部門別粗付加価値額構成比でウェイト付けし、加重平均することで作成。（ウェイト：鉱工業生産指数＝22.96、第3次産業活動指数＝77.04）

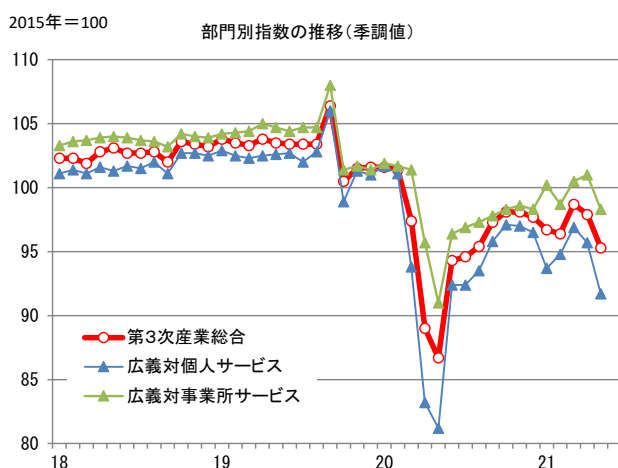
参考：経産省HP https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20200923hitokoto.html



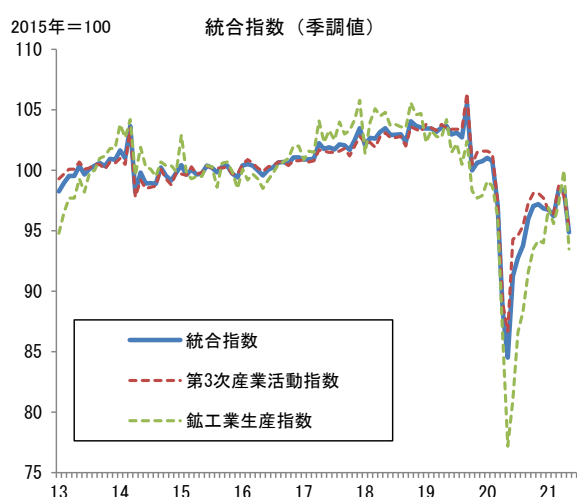
(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」



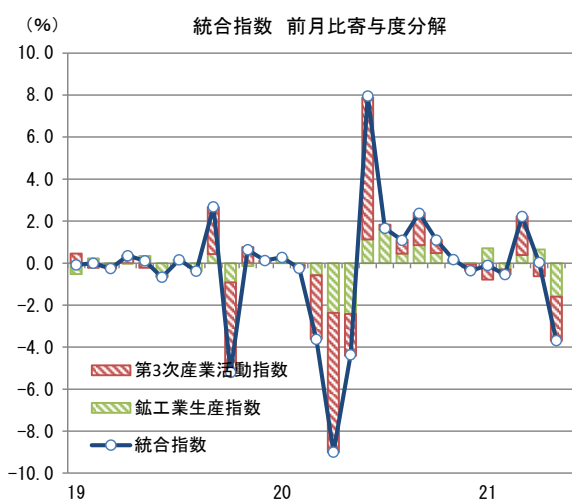
(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」



(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」



(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」「鉱工業指数」より筆者作成



(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」「鉱工業指数」より筆者作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。